

浮ヶ谷孝夫

(指揮者)



中学校でバス部に参加し、イゴール・マルケビッチ指揮のチャイコフスキー5番を聴き指揮者に憧れる。高校生から東京ジュニアフィルに参加し、指揮者の塚原哲夫氏より指揮と作曲の指導を受ける。1978年ドイツに渡り、ベルリン芸術大学(Hochschule der Künste Berlin)にて、Ahlenhof教授の元で研鑽を積む。1986年にフィルハーモニアポモルスカ(ポーランド)のドイツ演奏旅行の指揮者に抜擢され、1回目のコンサートの後に専属指揮者になり、トロフォン、CPO2社から多数のCD録音、ドイツ演奏旅行を行う。ベルリン放送響(現ドイツシンフォニーオーケストラ)、フィルハーモニア ウンガリカ、ポーランド国立放送響、カンヌシンフォニーオーケストラ、カナダ エドモントンシンフォニーオーケストラを始め数々のオーケストラに客演する。2000年より現ブランデンブルグ シュターツオーケストラ フランクフルトとの演奏活動を続けている。2003年よりブランデンブルグ州ノイルッピン音楽協会を設立し、音楽監督理事長として演奏会シリーズを行なっている。1996年フィルハーモニアウンガリカ、1999年北西ドイツフィルハーモニー管弦楽団、2001年2005年2019年現ブランデンブルグシュターツオーケストラ フランクフルトと日本ツアーを行なっている。2008年より日本の代表的なオーケストラとの演奏活動を始め、2019年東京21世紀管弦楽団の設立と同時に音楽監督に就任し本格的な日本での演奏を始めた。

田母神夕南

(ピアノ)



©NAGATOMO Hiromi

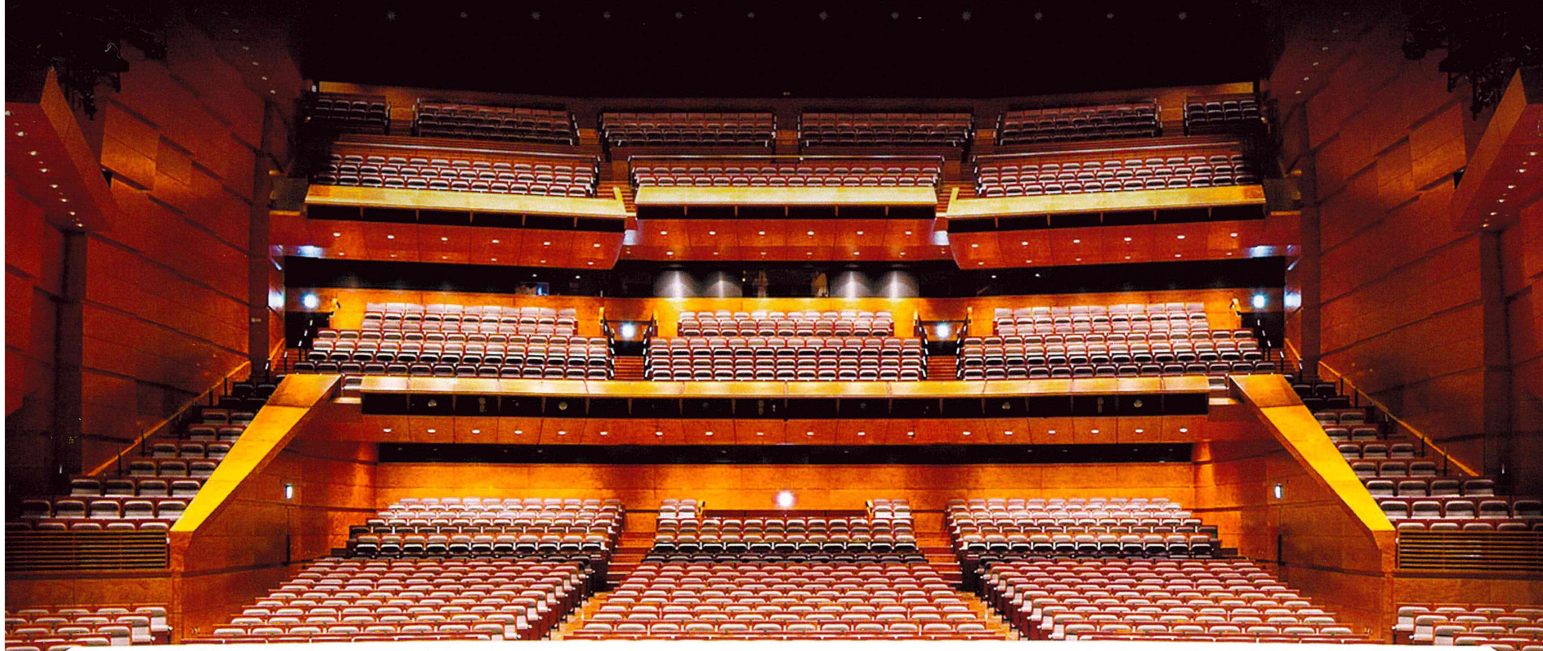
“まるで音符で物語を語っているよう。繊細な音とともに、独自の憧れと情熱を持った魂を感じる。”(ドイツ紙 Westdeutsche Zeitungより)。東京音楽大学ピアノ演奏家コースを卒業。同大学院を修了後、ハンガリー国立リスト・フェレンツ音楽院、イタリア・ペローネ音楽院にて研鑽を積む。ペローネ財団より奨学金を授与された。第39回ピティナ・ピアノコンペティション特級銅賞。第1回リスト国際音楽コンクール、第10回サン・ドナ・ディ・ピアーヴェ国際ピアノコンクールなど8つの国際コンクールで第1位を受賞。日本国内およびイタリア、スペイン、ドイツ、ハンガリー、スロベニアにてリサイタルを行う。これまでに読売新聞、毎日新聞などにインタビュー記事が掲載された。2025年にはデビューCD『Yuna plays Liszt ～光と闇～』をリリースし、深い音楽性と表現力が高く評価されるとともに、月刊『ショパン』10月号の表紙および巻頭特集に取り上げられた。演奏活動のほか、2025ミスジャパン プレミアム日本大会にて準グランプリを受賞。公式ホームページ:yunatamogami.com

東京21世紀管弦楽団

Tokyo 21c Philharmonic



音楽を通して多くの人たちと手を携え、今までの固定観念にとらわれない新しい時代の「楽しいオーケストラ」を目指して演奏活動を進めていくプロフェッショナルなオーケストラとして2019年設立。浮ヶ谷孝夫を音楽監督として迎え、東京国際フォーラム、東京芸術劇場、日本製鉄紀尾井ホール、サントリーホール、東京オペラシティなど都内の主要ホールで活動を展開している。これまでに2019年、オスカー新人賞歌手のステファン・ポップ、ファン・ディエゴ・フローレスほかビッグスターたちと共演。2022年8月、ミュージカル「ラ・ラ・ランド」6回公演、11月「BBC PROMS」に出演。2023年1月、「ホセ・カレーラス&ドミンゴ」コンサート、同年5月、4年ぶりに開催された「ラ・フォル・ジュルネ・TOKYO 2023」、に出演するなど急速に活動の場を広げている。2024年5月「ラ・フォル・ジュルネ・TOKYO 2024」にも登場。定期演奏会は既に15回を数え、重厚なドイツ音楽を中心に圧倒的な成功を収めている。青少年のための音楽鑑賞会や、新企画「0才からのオーケストラコンサート」など教育的活動にも積極的に参加し、幅広い活動を展開している。



©TOKYO INTERNATIONAL FORUM CO.,LTD



TOKYO INTERNATIONAL FORUM
東京国際フォーラム

【JR線】有楽町駅より徒歩1分 東京駅より徒歩5分(京葉線東京駅とB1F地下コンコースにて連絡)

【地下鉄】有楽町線:有楽町駅(B1F地下コンコースにて連絡) 千代田線:二重橋前駅より徒歩5分/日比谷駅より徒歩7分

丸の内線:銀座駅より徒歩5分 銀座線:銀座駅より徒歩7分 有楽町線:有楽町駅より徒歩7分 有楽町線:有楽町駅より徒歩5分